

淀川水系流域委員会
会長 芦田和男様

2004年10月19日

宇治市木幡南山67-5
川村善之

世界文化遺産の保護と宇治川改修工事について

貴委員会におかれましては、淀川水系のひとつである宇治川の改修工事につき、日夜ご検討賜っている由、大変ご苦勞さまです。

早速ながら、宇治川工事に重大な関わりのある宇治市の世界遺産の保護につき、一言お願いを申し上げます。

世界遺産となっています京都と奈良の文化遺産のうち、宇治平等院鳳凰堂とその周辺は、大陸の影響の強い奈良の遺産とは異り、とりわけ日本文化を象徴する典型的、かつ最重要な遺産であります。

その特質は、鳳凰堂の建築ひとつをみてもわかるように、単独、独立性の美ではなく、周囲との総合性の美を表していることです。例えばギリシャ彫刻などのような、何処に置いても変らない「独立美」に対して、鳳凰堂の阿弥陀如来像では、光背、天蓋、建築の天井、壁面の飛天や扉の壁画などのすべてが一体をなす美であり、建物もまた前の池、宇治川の流れ、背後の山々など、自然景と融合した「総合性の美」を示しそこにこそこの文化遺産の生命があります。日本にいくつかある世界遺産の中でも、この点は特筆すべき要点です。

世界遺産は、世界人類の共通の宝であり、保護すべき責務を当該国が担って居り、日本のような経済力の条件に恵まれている国はなおのこと、国として条約を結び各国に約束していることを、おろそかにしてはならないのは当然のことです。

そこで、いままで進められ、なお進められようとしている宇治川工事は、鳳凰堂を中心とする建築と宇治川の自然を一体とする総合性の美を失わせることになり、世界遺産としての価値を半減させます。これから予想される世界から来訪される人々の期待を裏切ることになるのは明かです。この際宇治川工事のひとまずの中止と、新に提起されている「治水、利水、景観の三者を一体」として同等に考える理念に基き、施策を再検討されることを強く望みます。

近年の宇治川塔の島あたりの変貌は、目にあまるものがあります。豊かな自然景観の中に、長大な人工的幾何直線と、急角度傾斜の幾何平面によるコンクリート川岸形成は、自然景観との調和を無視し、日本文化の歴史的根底をなす自然に親しむ人間を排除しようとするものと言わざるを得ません。ここは、他の河川とは異なる世界遺産に直接関わるということから、再考を要する根拠は充分です。

景観破壊の後世に及ぶ損失は、いま未完工事を中止し、自然景観をとりもどす費用とは比較にならないほど大きく、はかり知れないものがあります。このような問題が広く市民国民に知らされないまま、工事が進められてきたため、今なお景観破壊の事実など気付かないのが現状です。工事の基本方針、目的に関わる修正は、生易しいことではないと存じますが、永い将来を見通す高い次元のご判断から、工事の修正が行われますよう、切望致す次第であります。